

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク(ICN)

1 事業の趣旨・目的

所沢市内および近隣地域に在住している、日本語を母語としない学齢期の子どもの日本語教育に携わる人材を養成する。

2 企画委員会の開催について

【概要】 企画委員会はいずれも「子どものための日本語教室」の運営委員会を兼ねて開催した。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要 (養成講座に関して)
2009年 6月12日 14:00～ 16:00	所沢市役 所会議室	持丸 邦子 湯沢 智子 辻 恵子 横溝賀代子 小田 良子 滝本 美喜 小川 珠子	1. 文化庁の委託について 2. 子どものための日本語教室 3. 指導者養成講座 4. 高校進学ガイダンス 5. その他、次回の予定など	・応募以降の経過報告 ・講座内容、講師について検討 ・広報活動について検討 ・意見交換
2009年 11月13日 14:00～ 16:00	所沢市役 所会議室	持丸 邦子 湯沢 智子 辻 恵子 横溝賀代子 小田 良子 滝本 美喜	1. 指導者養成講座 報告 2. 子どものための日本語教室 報告 3. 今年度の支援の今後について 審議 4. その他、次回の予定など	・養成講座 報告 実施内容、受講者アンケート結果、受講者の修了後日本語教室への参加状況 ・意見交換
2010年 3月12日 14:00～ 16:00	所沢市役 所会議室	持丸 邦子 湯沢 智子 辻 恵子 横溝賀代子 小田 良子 滝本 美喜 小川 珠子	1. 報告(事業・会計) 指導者養成講座 子どものための日本語教室 高校入試の結果 2. 来年度について 日本語教室	・養成講座 会計報告 ・来年度について 申請内容説明 カリキュラム、講師、募集方法について検討 ・意見交換

		池上摩希子	指導者養成講座 運営委員会 高校進学ガイダンス 3. 将来展望	
--	--	-------	--	--

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 子どものための日本語指導者養成講座
- (2) 養成講座の目標
日本語を母語としない学齢期の子どもの日本語教育を担える人材を養成する。
- (3) 受講者の総数 54 人
- (4) 開催時間数(回数) 28 時間 (14 回)
- (5) 参加対象者の要件
現職教員および教員経験者・日本語教育の経験者(ボランティア含む)
- (6) 受講者の募集方法
市内:市の広報への掲載/市内公共機関等での募集チラシの配布
市内学校関係:学校教育課、教育センターを通じた募集チラシ配布
近隣6市:国際交流協会を通じた募集チラシ配布
(添付(郵送)資料:募集チラシ、市生涯学習情報紙掲載記事)
- (7) 研修会場 所沢市生涯学習推進センター
- (8) 使用した教材・リソース 講師作成の資料

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月19日 10:00~12:00	・開講式 ・世界的な人の流れと所沢の外国人	城西大学・NHK 学園高等学校専攻科非常勤講師、ICN 会長 持丸 邦子	43
7月19日 13:30~15:30	・所沢市の学校での公的な支援 ・日本語講師による体験発表	所沢市立教育センター 指導主事 山本 直子 所沢市立教育センター 非常勤講師 八角 朱子、辰巳 恵美子、 中村 栄子	42
7月26日 10:00~12:00	学校生活の今	所沢市教育委員会学校教育課副主幹兼指導主事 向井 茂樹	42
7月26日 13:30~15:30	所沢市のボランティア団体による支援 (体験発表を含む)	城西大学・NHK 学園高等学校専攻科非常勤講師、ICN 会長 持丸 邦子 ICN 所属日本語ボランティア 横溝 賀代子、鈴木 雅明	38
8月4日 13:30~15:30	子どもによる体験発表	中・高校生 城西大学・NHK 学園高等学校専攻科非常勤講師、ICN 会長 持丸 邦子	38
8月4日 10:00~12:00	発達心理— 子どもの心、親の心	東京家政大学大学院 文学研究科教授 井森 澄江	42
8月7日 10:00~12:00	子どもの社会・文化背景 (中国・フィリピン)	早稲田大学大学院日本語教育研究科准教授 池上 摩希子 所沢市教育センター非常勤講師・ 所沢市外国人相談窓口相談員 高田 ジャネット	38
8月7日 13:30~15:30	日本にやってきた子どもの現状と課題	早稲田大学大学院日本語教育研究科准教授 池上 摩希子	40

8月21日 13:30~15:30	来日間もない子どもへの 指導法	中国帰国者定着促進センター 教務部常勤講師 小川 珠子	44
8月28日 10:00~12:00	読み書きの指導法	浜松市立瑞穂小学校教諭 近田 由紀子	42
8月28日 13:30~15:30	小学生への教科の指導法	浜松市立瑞穂小学校教諭 近田 由紀子	39
9月12日 13:30~15:30	中学生への教科の指導法	江戸川区立葛西中学校教諭 小川 郁子	33
9月27日 10:00~12:00	受講者によるフリートーク ／今後に向けて	城西大学・NHK 学園高等学校専攻 科非常勤講師、ICN 会長 持丸 邦子	29
9月27日 13:30~15:30	・学校と地域 ・閉講式	淑徳大学国際コミュニケーション学部特任 教授 菊池 義信	32

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

「子どものための日本語指導者養成講座」受講者アンケート 集計結果

回収数:25 カッコ内は人数

(1)本講座をどのようにお知りになりましたか？(複数回答者有り)

1. 「翔びたつひろば」(市報) (11)
2. 公民館等のチラシ (5)
3. 知人から (1)
4. その他 (9) (ICN 会員、見学に行つて、など)

(2)講座の内容はいかがでしたか？

1. 満足した (15)
2. 普通 (6)
3. もう少し違う内容を期待していた (4)

(3)講師の話、説明はいかがでしたか？(複数回答者有り)

1. わかりやすかった (19)
2. 普通 (6)
3. 難しかった (1)

(4)配布資料について

1. 良い (18)
2. 普通 (7)
3. 良くない (0)

(5)今後どのような講座を希望されますか。

- ・日本語の具体的な指導方法、実践的な教授法 (11)
- ・具体的なサポートの仕方。子どもたちの現状・意見・感想を聞きたい。

- ・子どもたちの日本語支援について(特に学校内でなじめない子)。
- ・今回の講座をもう少し追及できるような継続のもの。
- ・成人向けの日本語指導の講座を土日に開催してもらいたい(若い人も参加しやすい)。
- ・実践に即した講座
- ・どんどん講座を企画していただきたい。
- ・特に無し (2)

② 実施主体からの研修内容結果評価

1. 受講者が意欲的であった。

50名の募集に対し、54名の参加があった。内訳は、教員免許保有者:25名、日本語教育経験あり:38名、両方を有す者:15名、受講への熱意を有する者:6名と主宰者の企画意図に合致する応募があった。近隣市へも募集の広報をしたが、市外からの参加は2名に留まった。

開講が3ヶ月にわたり、実施曜日が一定せず受講が難しい中でも熱心に参加し、その結果8割以上の出席者に発行した修了証書の受領者は43名に上った。

2. 講義内容に対して受講者から高い評価が得られた。

アンケート結果、また講座ごとに回収した感想からは

- ・教授法に偏らず幅広い講義内容だった(講座の意義、所沢市の現状、心理学等)
- ・現場の声が聞けた(ボランティア、子ども、指導している教員)
- ・学校での具体的な指導法が聞けた／講師の熱意ある指導に触れられた。

以上3点に高い評価が得られた。

ただ一部の講座は、基礎知識を得ることを目的に企画したため内容が一般的であり、より「子どもの支援」にテーマを絞った内容を希望する意見が見られた。また今後はより実践的な講座を希望する声が多くでている。

3. 講座実施にあたり、地域からの協力が得られた。

講座は「所沢市生涯学習推進センター」との共催として実施することができた。その結果講座への高い信頼が得られ、受講者の募集にプラスに働いた。また会場使用等にも便宜が図られ、修了証書も連名で発行された。

ICNではこれまでも教育委員会と情報交換、連携を進めていたが、今回の講座の開講を通じてさらに連携を強めることができた。社会教育課からは運営委員として、所沢市立教育センターと学校教育課には講師として協力をしていただいている。

市内の「中国帰国者定着促進センター」には運営委員、講師として協力をお願い

した他、近隣の大学など地域のリソースを活用することができた。

4. 日本語を母語としない子どもの支援に対する理解と意欲を醸成することができた。

研修最終回には今後の活動意向にそって、グループごとに話し合いを持った。講座を通じ、支援の必要性と、支援の状況が不十分である市内の現状への理解が進んだようだ。

また子どもへの日本語支援をすでに行っている受講者もあったが、講座を機に新たに支援に加わる意欲をもった受講者も多かった。ただ、希望する具体的な支援方法は人により様々であった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

引き続き、学校教育課、教育センター、社会教育課、生涯学習推進センターといった教育委員会の各部署、および所沢に立地する中国帰国者定着促進センター、また、市内の他のボランティア日本語教室との連携を密にし、効果的な支援を行えるようにしたい。学齢期になるまで、勉学の機会に恵まれなかった外国出身の青少年のための「学び直し」の学校を立ち上げるのが究極の目標である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

養成講座開講期間中に「日本語を母語としない子どもと保護者のための高校進学ガイダンス」(主催:彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク)が所沢市で開催され、本講座受講者から13名が実行委員、スタッフとして協力し、現状に触れる機会になった。

また、以前からICNでは「子どものための日本語教室」を実施、学校への講師派遣も行っていたが、養成講座終了後、市教育委員会が学校への教科の日本語学習支援者の派遣を制度化するための試みに取り組み始め、本講座受講者を派遣する形で協力した。

② 研修後の人材活用

まず、私たちの平日、放課後の教室への協力を呼びかける。新年度からは教育センターが派遣ボランティアの登録を開始する予定のようなので、参加者に登録を働きかける。また、現役の教員にも教育委員会を通じて参加をよびかけ、外国出身の子どもの日本語学習や勉強の環境を整える。

(12) 今後の課題

今回の講座を機に支援者は増えたが、所沢市の子どもたちの状況から考えるとその数は充分とはいえず、引き続き指導者を養成していく必要がある。

指導者養成講座を開講する場合は、今年度の反省を踏まえ、実践的な内容を盛り込むなど、講座内容についてさらに精査が必要であるが、同時に講座修了後、より多くの受講者が支援に加わるような方策を考える必要がある。

指導は一対一で行われることから、人選には慎重にならざるを得ず、実際に一人で支援に入ってもらう前に、土曜日の教室などで、適性や子どもとの相性を観察していくことも今後は行う必要がある。

また、支援対象となる子どもが、日本語ができないことを、学習能力の不足、あるいは、日本文化に慣れないことを、精神的な問題あり、とされることもあり、一方で、逆に、学習能力不足を日本語能力不足と判断されたりすることから、その境界の見分け方なども学んでいく必要がある。